

ISLIS 第 56 回生命情報科学シンポジウム

2023 年 8 月 18-21 日 (金-月) 岐阜県養老町 合宿

【大会長講演】「ホリスティック(全人的)医学と不思議の科学 III」 — 船戸クリニック挑戦 30 年の視察・体験 —



船戸 崇史 医師

第 56 回生命情報科学シンポジウム 大会長,
国際生命情報科学会(ISLIS) 理事, 日本ホリスティック医学協会 副会長,
船戸クリニック 院長

【要旨】 この度、歴史ある国際生命情報科学会 第 56 回生命情報科学シンポジウムの大会長をお引き受けすることになり光栄です。また、本シンポジウムの 3 泊 4 日の合宿も私のホームグラウンドの岐阜県養老にて開催させて頂ける運びとなり、養老町はじめ養老郡医師会等のご協力も賜り、鋭意準備中です。皆様、奮って、演題のご提出とご参加をお願い致します。

今回の主テーマは「ホリスティック医学と不思議の科学 III」としましたが、とりわけ私自身が取り組んできました「がんの本質的治療」につきまして — 船戸クリニック挑戦 30 年の視察・体験 — と大層な副題を付けさせて頂きました。

ご存じのように、日本人の死因の 1 位はがんであり、毎年増加の一途をたどっております。しかしこれは高齢化に伴う増加であり年齢調整後死亡率を見ますと、がん死亡率は 1990 年後半からゆっくりですが減少しております。偏に早期発見早期治療の効果と思われれます。しかし、問題は罹患率で、年齢調整後のがん罹患率は 1985 年以後右肩上がりに上昇している事です。がん発症が増えている。これをどう考えどう予防するのか？こそ、がん治療全体の一番のテーマではないか？と考えます。

副題の船戸クリニックに関して記します。私は消化器外科の立場から、沢山のがん患者との出会いの中で「がんも身の内、がんも生きておりがんにも言い分がある。それを聴く事ががん予防でありがん治療である」という仮説を立て、がんの言い分を聴く施設「リボン洞戸」を 2018 年に開設しました。その過程やアンケートによるその評価を当日ご紹介させて頂きます。

次に、こうしたがん治療を中国数千年の歴史の中ではどう対処してきたのでしょうか。特に漢方に造詣の深い船戸博子先生(当院副院長)からは、中国伝統医学でがんの捉え方治療法を紹介いただき、その考え方の薬膳も今回体験頂こうと思っております。

次にイタリアの欧州最大のスピリチュアルコミュニティーであるダマヌールの市民であるくおん先生(肥後先生)です。もともと血液内科の医師です。ダマヌールの思想からがんとは何かを読み解きダマヌールの世界観と病気観からがん治療法をご紹介します。当日ダマヌールサーキットをご体験していただけます。

次に西洋医学の発展の原動力は「死への不安」があると言われております。この本質的、根源的なテーマでもある「死への不安」への対処法を禅宗僧侶の野口法蔵師からご紹介いただきます。野口氏は奥チベットと言われるラダック(冬期 -40°C という 3000m 級の高山にある寺)で 4 年間修業された僧侶です。五体投地や冬の滝行、断食行などから座禅断食と言う独自の修養法を編み出され当院でも実践しております。私は「死ぬ前に一度は体験してほしい」と年 3 回程度 2 泊 3 日の座禅断食会を実施しております。今回座禅会の指導もお願いしております。

最後に、リボン洞戸で退行催眠セラピーを行っております、細川明子セラピスト(本来はイギリスで資格取得したシュタイナーのオイリュトミスト)です。「ポリヴェーカル理論で読み解くリボン洞戸の意味」と題して、セラピストから見たリボン洞戸の意義をお話頂こうと思っております。

クリニックは、当初は西洋医学中心でしたが、在宅看取りにも力を入れた関係で、介護保険施設も増築しました。現在はクリニックを中心に、デイケア、デイサービス、有料老人ホーム、グループホーム、居宅支援事業所、訪問看護ステーションなどを併設しております。また 12 年前には、より本来の健康を取り戻すことを目的に統合医療センターを増設。種々セラピーや高濃度ビタミン C 点滴、水素ガス、温熱治療、還元電子治療、オゾン治療などの補完代替医療やより美しくを目指した美容部門も併設しました。

最終日月曜には歴史、有名スポットとして、養老の滝や荒川修作作の天命反転地などもバスツアー探索予定です。どうぞ楽しいひと時を体験頂ければと町を挙げてお待ちしております。

キーワード: 国際生命情報科学会(ISLIS), 第 56 回生命情報科学シンポジウム, ホリスティック医学, 岐阜県, 養老町, 船戸クリニック, リボン洞戸, 在宅看取り, 介護保険施設, デイケア, デイサービス, 有料老人ホーム, グループホーム, 居宅支援事業所, 訪問看護ステーション

<会長講演>

大ホリスティック医学とは

帯津 良一 医師・医学博士
ISLIS 会長, 日本ホリスティック医学協会 名誉会長(元会長)
帯津三敬病院 名誉院長



要旨: 自然界は大は虚空から小は素粒子まで“場”の階層から成り,上の階層は下の階層を超えて含むという原理によって一体化している.だから人間まるごととは一体化した全階層を指す.

また,時間的に見ても,この世だけではなく,死というプロセスの向こうに広がる広大なあの世をも対象にして始めて人間まるごとである.すなわち生と死の統合である.かくして空間的にも時間的にも人間まるごとの概念を拡大したものが大ホリスティック医学であり,生きとし生ける者すべてが,この世にあるうちに生と死を統合してあの世に移行するといった,生と死の統合社会の実現こそ,大ホリスティック医学の究極である.

キーワード:

連絡先: 帯津 良一 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

<講演>

漢方におけるがん治療

船戸 博子 漢方医・食医
船戸クリニック (日本、岐阜)



要旨: 患者さんを診るとき,最初に望診,その後に舌診,脈診,手相診を行います.漢方医は,おひとりおひとりが生まれつき持っている性質や体質に注目しますので,処方する薬も養生法も個々の患者さんで違います.その患者さんの状態に合った薬や食事,運動を提案していきます.

がん腫塊は気・血・水の滞りと考えますので,気・血・水の流れを良くし,腫塊を小さくする漢方薬を使い,温熱に腫塊を散らし,免疫力をアップする補気薬を飲んでいただくことを基本としています.がん治療の療養生活を支えるのに,とても漢方は役に立ちます.なぜなら,自分に合った薬を飲んだり,食事をしたりすることで,がん治療に耐えるだけの体力をつけ,且つ,がん治療の副作用を軽減できるからです.

特に,自分の体質に合った食事を摂っていただくのが何より大切だと考えます.血液検査で糖質・脂質・たんぱく質の栄養分析を行い,管理栄養士が従来の食生活を聞き取り,そして漢方診察を行います.その方の漢方的な性質(証),「気・血・水」,「肝・心・脾・肺・腎」の五臓のどこに「虚」があり「実」があるのかを判断し,食材ひとつひとつの性質とその方の体質を照らし合わせて,食材を選んでいき,メニューを組み立てます.これを「パーソナル薬膳」と呼んでいます.食べてほしい食材と食べない方がよい食材,またご自身に合った調理法もお伝えしますので,自宅にもどってからもご自身に合った食事を作ることができます.

また,2020年10月に Villa CAMPO ヴィラカンポを開業しました.ここでは,船戸クリニックで保険診療を,また統合医療センターで自費診療やセラピーを受けながら,患者さんのための食事を摂っていただき,ゆっくり滞在していただけます.ヴィラカンポは患者さんご自身を生きる場所です.当日は,施設のご案内はもちろん,薬膳ランチをご用意してお待ちしております.

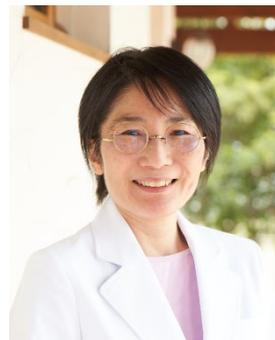
キーワード: 漢方,気・血・水,パーソナル薬膳,ヴィラカンポ

連絡先: 船戸クリニック総務: 〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344 0584-35-3335 soumu@funacli.jp

<講演>

ダマヌールのがん治療

くおん 医師
船戸クリニック (日本、岐阜)



要旨: イタリアに欧州最大のコミュニティの連合体ダマヌールがある.そこでは,75000 年以上にわたって蓄積された秘教的知識をもとに,ユニークな人生哲学を前提とし,人間の精神的な進化に向けた精神的探究と持続可能な社会の実験と実現を目指している.創立から 49 年目を迎えるダマヌールのコミュニティ社会は,国連から未来の持続可能な社会モデルとして,2005 年に表彰されている.

なぜ、ダマヌールが、北イタリアに創設される必要があったのか？ 地球のシンクロニックラインとは？ 魂と肉体とマインドの複合体である人間。多種多様なエコシステムの一部として存在する人類。ダマヌールが考える健康感とは何か？ ダマヌールの死生観とは？ 現代の地球上では、唯一ダマヌールが復興させ、発展させたセルフ学とは何か？シンクロシティとは何か？ ダマヌールの代表的なヒーリング、プラノセラピーとはどういうものか？ それ以外のダマヌールが補完的に用いるヒーリングにはどういふものがあるのか？ 呼吸と食事の重要性、様々なアプローチで健康に取り組むダマヌールを紹介する。

キーワード: **ダマヌール, プラノセラピー, セルフ学, 呼吸, シンクロシティ, 輪廻転生。**

連絡先 : 船戸クリニック総務: 〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344 0584-35-3335 soumu@funacli.jp

<講演>

事前に死を想定して恐怖を取り除く練習をすることの重要性

野口 法蔵

禅宗僧侶 (日本、長野)

要旨:肉体的に死を迎える人の肉体的な痛みを取るには、モルヒネなど疼痛治療が有効であります。それはあくまで治療側からの対処法であって、肉体的痛みは取れても死にゆく人、本人の苦しみは取れないということがあります。まして、恐怖心からくる苦しみはどのようにしたら良いのでしょうか。

それには、「死と言うものは、どのような過程をたどるのか」「行き着く先はどのような事になるのか」を知りたいところであり、ただ皆向こうに行ってしまうと教えてくれる人はありませんので、不確かではあってもイメージを持っておく必要があります。そうすれば、実際に死が訪れる時までの不安の軽減になります。それを引導してくれるのが、本来宗教者でありましたが、昨今では「看取士」と別に「死の臨床士」と言うものも存在します。海外ではチベットに「死の準備」とか「死の訓練」という書物も存在します。

しかし、ここまででは外部の人の力を借りるので、その先、人の声も届かなくなったときに自分自身でやっていける事は、今までの経験を生かすことと、唯一できるのは「呼吸法」だと思います。経験と言うのは食べられなくなったときにも大丈夫心と思える「断食」のようなものを経験しているかどうかで、これは経験者は体が覚えていると思います。

そして、やはり絶食した時に行った呼吸法は体が獲得して、動けないまま天井を見つめながら、「自分の呼吸を数える」「意識的に呼吸をする」と言うことで、心は安定すると思います。実際には食べられなく、水も飲めない腹膜播腫の状態から呼吸法で水が飲めるようにまで戻り、寝れるようになったケースもあります。体が獲得していたこと、それが最期の状態で使える最良の方法につながります。そういった方法を実際の臨床を例に挙げてお話しできればと思います。

そして、やはり絶食した時に行った呼吸法は体が獲得して、動けないまま天井を見つめながら、「自分の呼吸を数える」「意識的に呼吸をする」と言うことで、心は安定すると思います。実際には食べられなく、水も飲めない腹膜播腫の状態から呼吸法で水が飲めるようにまで戻り、寝れるようになったケースもあります。体が獲得していたこと、それが最期の状態で使える最良の方法につながります。そういった方法を実際の臨床を例に挙げてお話しできればと思います。

キーワード: **死にゆく過程, 呼吸法, 断食**

連絡先 : 船戸クリニック総務: 〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344 0584-35-3335 soumu@funacli.jp



<講演>

ポリヴェーガル理論で読み解くリボン洞戸の意義 ~「がんの言い分」を聴くとはどういうことか

細川 明子

オイリュトミスト、退行催眠療法士 (日本、岐阜)

要旨:ポリヴェーガル理論は、アメリカ・イリノイ大学精神医学名誉教授ボージェス博士によって

1994年に発表された理論であり、哺乳類、特に人間が「つながり」を育む生きものであることに

注目し、この哺乳類特有の機能への副交感神経系の関与を研究したものである。リボン洞

戸は、日本で唯一のがん患者のためのリトリート施設であり、「がんが消えていく生き方」の実践及び、がんを通して人生を生き直したいと全国からたくさんの方が訪れ続けている。リボン洞戸では、がんは「言い分」を持っており、その「言い分」を受け取ることによって、その人の人生がより生き生きと豊かなものになっていくと考えている。今回、このリボン洞戸においてその主旨の元、カウンセリングを行ってきた経験を報告すると共に、ポリヴェーガル理論を用い、その意義を考察する。またさらにリボン洞戸においてのさまざまな取り組み、また存在意義についても同様にポリヴェーガル理論を使って考察する。

キーワード: **ポリヴェーガル, リボン洞戸, がんの言い分**

連絡先 : 船戸クリニック総務: 〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344 0584-35-3335 soumu@funacli.jp



<講演>

ピラミッドパワーの科学的解明 II (Scientific Elucidation of Pyramid Power: II)

高木 治¹, 坂本 政道², 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(IRI) (日本, 千葉)

² (株)アクアヴィジョン・アカデミー (日本, 千葉)

要旨: 我々は2007年10月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー(ピラミッドパワー)を実証するため、厳密に科学的な実験を続けている。ピラミッドパワー検出実験は、バイオセンサ(キュウリ切片)をPS頂点および8m離れた校正基準点に30分間置き、その後バイオセンサを密閉容器に移し、容器内の揮発成分(ガス濃度)を測定するという方法で行った。実験は主に、条件が異なる2種類の実験を行なっている。(1)「ピラミッドパワー実験(PP実験)」: この実験は、PSが潜在的に持っている、いわゆるピラミッドパワーを検出する実験である。この実験は、次に示す「瞑想実験」の瞑想日から、20日以上経過後に、被験者の影響が除外された状態で実験を行った。(2)「瞑想実験」: この実験は、バイオセンサをPS頂点に置いている間、被験者がPS内に入り瞑想(ヘミシンク)を行う実験である。また、瞑想中の結果と比較するため、瞑想の前と後の時間帯にもバイオセンサをPS頂点に置いた実験を行った。この実験から、PSに対する被験者の影響が継続し、瞑想後20日間程度で影響が検出されなくなった。本講演は主に(1)「ピラミッドパワー実験(PP実験)」の結果について報告する。即ちPP実験に関する次の6つの結果である。1) PSの潜在力(ピラミッドパワー)の存在を明らかにした(1%有意で実証: 夏期データ)。2) PSの潜在力の影響が、PS頂点に2段に重ねて置いたバイオセンサに対して、下段と上段で異なることを明らかにした(ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数 Ψ が、下段のバイオセンサに対するサイ指数 Ψ は-3.01でマイナスの値、上段に対するサイ指数 Ψ は5.52でプラスの値となり、下段と上段で有意差を得た。 $p=4.0 \times 10^{-7}$)。3) PSの潜在力によるピラミッド効果が、季節変化するものと、季節変化しないものがあることを明らかにした。4) PSの潜在力の詳細な解析の結果、バイオセンサ間の絡み合い(Bio-Entanglement)と考えられる現象を明らかにした。ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数 Ψ が、PSの潜在力による効果 Ψ' とBio-Entanglementによる効果 Ψ'' とに分離できることを明らかにした。5) PSの潜在力による効果 Ψ' が、バイオセンサの特性であるガス濃度の概日リズムの位相に影響を与えることを明らかにした。6) PSの潜在力による効果 Ψ' が、常に一定の影響力を及ぼす静電場や静磁場などのような場の一種であることを明らかにした。ピラミッドパワーに関する研究は、未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中、我々の実験結果は、この分野において世界初の研究成果である。今後この成果が一般に広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。

キーワード: ピラミッド, 潜在力, 概日リズム, エンタングルメント, バイオセンサ, キュウリ, ガス

代表著者連絡先: 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 E-mail: takagi@a-iri.org

参考文献

Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2023) Potential Power of the Pyramidal Structure VIII: Exploration of Periodic Diurnal Oscillation of Pyramid Power and Bio-Entanglement. *Natural Science*, **15**, 179-189. <https://doi.org/10.4236/ns.2023.15401>

<研究発表>

ピラミッドパワーの日内振動の解析 (Analysis of Diurnal Oscillations of Pyramid Power)

高木 治¹, 坂本 政道², 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(IRI) (日本, 千葉)

² (株)アクアヴィジョン・アカデミー (日本, 千葉)

要旨: 我々は2007年10月から、ピラミッドパワーを実証するため、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)を作製し、厳密に科学的な実験を続けている。ピラミッドパワーは通常の電気計測器では検出が難しく、バイオセンサ(キュウリ切片)を用いた実験を行っている。PS頂点および8m離れた校正基準点にバイオセンサを30分間置き、その後密閉容器の中のバイオセンサから放出された揮発成分(ガス濃度)を測定・解析することによって、ピラミッドパワーを実証し、その特徴を明らかにしてきた。これまでの研究成果として、ピラミッドパワーに関する原著論文12編、バイオセンサの特性に関する原著論文3編、総合報告3編、書籍中の1編を発表した。バイオセンサに対するピラミッド効果を詳細に解析した結果、バイオセンサ間に存在する奇妙な関係性を発見した。それはあたかも量子エンタングルメントの絡み合いに似た現象であり、我々はその現象をBio-Entanglementと名付けた。Bio-Entanglementの発見によって、それ以前にピラミッド効果の大きさを表す指標と考えていたサイ指数 Ψ は、ピラミッドの潜在力(サイプライム指数 Ψ')とBio-

Entanglement (サイダブルプライム指数 Ψ) が混在している状態であることが判明した。一方、我々は生体であるキュウリから作成したバイオセンサから放出されたガス濃度が、概日リズムを持ち、そのリズムが季節変化をすることを明らかにした。ガス濃度の概日リズムの一周期は冬では 8 時間、春では 6 時間、夏では 24 時間、秋では 12 時間と 24 時間の混合周期であった。概日リズムは、生体であるキュウリの特性であり、ピラミッドの潜在力の影響を受けても受けなくても概日リズムの周期に変化はなかった。バイオセンサが概日リズムという周期的な日内振動をしているため、我々はピラミッドの潜在力 (サイプライム指数 Ψ') や Bio-Entanglement (サイダブルプライム指数 Ψ) も周期的な日内振動をしている可能性について解析した。その結果、ピラミッドの潜在力と Bio-Entanglement は、ほぼ周期的な日内振動はしていないという結論を得た。このことからピラミッドパワーは、常に一定の影響力を及ぼしている静電場や静磁場などのような場の一種であることを初めて示した。ピラミッドパワーに関する研究は、未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中、我々の実験結果は、この分野において世界初の研究成果である。今後この成果が一般に広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。

キーワード：ピラミッド、潜在力、日内振動、周期性、エンタングルメント、バイオセンサ、キュウリ

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉県稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 E-mail : takagi@a-iri.org

参考文献

Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2023) Potential Power of the Pyramidal Structure VIII: Exploration of Periodic Diurnal Oscillation of Pyramid Power and Bio-Entanglement. Natural Science, 15, 179-189. <https://doi.org/10.4236/ns.2023.154013>

<一般発表>

93.1%が実感した新しい宇宙エネルギーの技術について

津田 涼子

株式会社 オリジナルブレイン(日本、千葉)

要旨:アインシュタインの空間の電磁エネルギーの理論を元に、脳の疲労を和らげ、細胞の感情を軽減しています。2018 年より約 160 名の実践者のうちの 2 割が医療従事者であることから、統合医療の現場での認知と活用を広げることを積極的に行います。実施したセラピーにより、変化が起きた症例を3つに絞り、病院からいただいたデータや動画、行った方のインタビューを動画で公開します。

①前立腺の数値(SPA)のグラフと、技術を実施した看護師のインタビュー

②リウマチにより3年間車椅子だった男性が、壁づたいに歩くまでになった動画

③2年前から脳の血管にあった4つの瘤が変化した画像

肉体は必ず亡くなるものなので万能ではないのですが、これまで手立てがなかった症状に活用ができることがわかってきました。

キーワード：体調不良と感情、脳疲労、細胞の感情

連絡先：津田涼子 株式会社 オリジナルブレイン 千葉県緑区おゆみ野中央 9-14-2-101

電話：070 - 4576 - 4104 E-mail : jupiter.healing@gmail.com